

中牟田 和佳(なかむた ほのか)

私が今回ミャンマースタディーツアーに参加したきっかけは、母からJAMAHAの活動について教えてもらい押されたからだ。正直、行くつもりもなくアメリカにでも行きたいと思っていた私は、母の話を軽く受け流していた。しかし、アメリカ行きがキャンセルになりバイト三昧だったため、春休みを何もせずに終わりにしたくない。また、ボランティアという肩書がほしいという他の人に言ったら怒られそうな雑な理由から、スタディーツアーに参加することを決めた。ミャンマーに行ったら特に感じたことが2つある。1つ目は初日に吉岡先生の講演を聞いたことだ。吉岡先生はミャンマーの子供たちの為に働いている。最初、私は吉岡先生がすることが理解できなかった。なぜなら、もし日本で働いていれば、たくさん稼ぐことができるのに対し、ボランティアで治療をすれば給料が入ってこないからだ。しかし、話を聞き進めていく中で、そう感じた自分がちっぽけで恥ずかしくなった。先生は「その人にとっての価値観とは何か」を教えてくれた。私はまだ自立してないためバイトで得た給料だけでは生活することができない。そのため、吉岡先生のように人を救い、手助けをすることで価値を見出すという考えが頭の中に全くなかった。APUというグローバルな大学で学んでいるため、「価値観や視野を広げたい」ということは決まり文句のように言われており、私も大学入試の際に言い続けてきた。しかし、実際には確かに文化の違いは日々感じるものの、価値観や視野を広げられたほどの感銘を受けたことはなかった。このことから、自分の幸せの焦点を少し変えることで、いろんな人の価値観

に出会うことができるということが分かった。価値観や視野が広がるというのはこういうことだったのかと心を動かされた講演だった。スタディーツアー初日にして、自分の中での収穫ができ、来た意味を感じることができた。2つ目はミャンマーに来る前から疑問に思っていたゴミ拾い活動だ。このツアーに参加する前から予定表を見て、私はなぜミャンマーに行き、そこでゴミを拾わなければならないか理解ができなかった。村の人々は、私たちが来なければゴミ拾いのできないのか?そんな疑問を持っていた。ボートに乗り村に着くと、道の脇にはたくさんのゴミが投げ捨てられていた。そこで聞いた話には、ミャンマーの人たちはゴミを拾う習慣がないため道に捨てるというものだった。実際に、私たちと一緒にゴミを拾っている子供たちに対し、大人は椅子に座ったまま物珍しそうに眺めているだけという状況を見て、私の想像以上にミャンマーは環境が整っておらず、システムが成り立っていないということを知った。ゴミ拾い活動をしている中で、気になることがあった。それは、ゴミの中に日本語で書かれたパッケージのゴミがあったことだ。日本人が物を寄付するおのは素敵なことだと思う。しかし、ただ寄付するだけではなく



その先のことで考えて、なるべく包装が少ないものやゴミになりにくいものを寄付するなどするとなおよくならないかと考えた。ミャンマーにも、ゴミを焼却するシステムを早く作ることが、綺麗な街づくりを作る近道なのではないかと感じた。夏にフィリピンにいたことから、発展途上国として比較したときに、やはりミャンマーはいろんな面からみて遅れていると感じた。確かにフィリピンにもゴミはあったが、街にはゴミ箱が設置されており、電力の普及も進んでいた。しかし、ミャンマーの人たちからは温かさを感じた。ショッピングをするにしても押し売りはしてこないし、ひったくる人や、お金をせがむ人も圧倒的に少ないと思った。地理的にみても、ミャンマーは中国やタイなどたくさんの国に囲まれている。このことから、ミャンマーはこれからさらに発展していくのではないかなと強く感じた。今回ミャンマースタディーツアー私にたくさん考え、学ぶというチャンスくれた。参加していなければ知らなかったことや、感じることでできない気持ちもたくさん見つけることができ、5日間があつという間に過ぎていった。ここで学んだことを次に活かしていくためにも、これからもハングリー精神を忘れずにチャレンジしていきたいと思う。

JAMAHA NEWS

JAPAN & MYANMAR ASPIRATION HOYU ASSOCIATION

2017.6 vol.8

日本ミャンマー豊友会

将来の子供たちが共存共生のできる豊かで平和な世界へ

具体的な成果が見えてきました



いつも日本ミャンマー豊友会をご支援くださりまして、ありがとうございます。先期も「日本とミャンマーの子供たちの未来のために」の理念に沿って三つの事業分野で活動を展開いたしました。

①国際協力活動。ジャパンハートさんの視覚障がい者の職業訓練を受けた方々(主に整体、マッサージ技法)の受け皿で、仕事場を作り「なごみ」等にご就職いただいております。

②子供の健全育成を図る活動。例年のようにシャン州PAO族の村々に保育園の寄贈を続けています。全村総出のオープニングパーティーに感激される方々が、順番にお申し出いただき、先期は3村に建設いたしました。建設材料費の85%を上限として、労力は村民の勤労奉仕で作っていただいております。お祝いには日本の紙芝居、ピアノ、鯉のぼり、サッカーボール、文具などを寄付させていただいてい

ます。その他に、孤児院の子供の奨学金、洋裁教室やパソコン教室等も小規模ながら実施いたしました。文科省やPAO民族教員養成大学へのピアノの大量寄贈を中部楽器技術専門学校様のご協力のもとに実施、またアイプロジェクト名で、志ネットワークのメンバーの皆様のご支援の下、一人の少女の眼科手術を実施させていただきました。日本からは秋、春と2回のスタディーツアーも実施いたしました。秋は障がい者の方2名、春は5名の子供たちと19歳の2人の若者を含む19名でした。が、年度末は飛行機が非常に取りにくく、次回から子供たちの交流は夏休みに行う予定でいます。

③環境保全を図る活動。マインタック村の子供たちのゴミひろい活動の支援を端緒として、村内へのゴミ箱の設置、焼却炉の寄贈と活動は深まってまいりました。りそな財団のご支援の下、ゴミ分別、焼却炉運転の実際等の

訓練のために、若者のリーダーを日本に招請いたしました。

※今期も同様の方針で行くつもりですが、保育園の寄贈は年2か所まで、職業訓練はトンテ孤児院の洋裁教室に予算を取ってカリキュラムの確立を図りたいと思っております。

※現地事務局長の山口氏の辞任に伴い、活動に若干の空白が生じます。県の認定法人の認可は11月を予定しております。

※総会は5月27日午前11時より、名古屋市港区の邦和セミナーハウスで開催する予定です。

日本ミャンマー豊友会の日頃の活動は Facebook をご覧ください【<https://www.facebook.com/JAMAHA.jp>】

参加者 募集 第26回 ミャンマースタディーツアー [10月下旬ころから11月上旬ごろ予定] 詳細はFacebookまたは、ホームページをご覧ください。



NPO法人 日本ミャンマー豊友会
〒442-0826 愛知県豊川市牛久保町城下 73 番地 (大木産業株式会社内)
Tel. 0533-85-3358 Fax. 0533-85-4986 e-mail • jamahajapan@gmail.com
<http://www.hoyukai.com/myanmar>
Facebook • <https://www.facebook.com/JAMAHA.jp>



お振込先

郵便局 振替口座 00820-5-135506
特定非営利活動法人日本ミャンマー豊友会
三菱東京UFJ銀行 中村公園前支店
普通 0027522
特定非営利活動法人日本ミャンマー豊友会

第25回ミャンマースタディーツアー[2016年3月25日▶3月29日] レポート

ミャンマーに行。たこし
三月二十五日(一日目)
ついた日は、少しぬむか。たです。ひこう
さの中でえい酒を見て、夜中。三時まひで
いたからです。
ミャンマーの、日本人のおはかに行。た時
は、あつくて頭がいなり。たひす。めんはか
あきふうもあひている間に、ミャンマーの
のら犬の写真をとりました。かわいかつたの
す。つぎにびういんに行。て吉岡先生と話
をしました。話はよくわからなひのにおじこ
んたうにほめられました。つぎにホテルに行
きました。おふとんでもさもちよくねました。
三月二十六日(二日目)
ひこうさの、でインレー湖まで行きました。
インレー湖でボートにのりました。おじ
うでゴミひろいをしました。タバコやか
んやあかしのからがたくこんありました。

ミャンマーに行。たこし
三月二十五日(一日目)
ついた日は、少しぬむか。たです。ひこう
さの中でえい酒を見て、夜中。三時まひで
いたからです。
ミャンマーの、日本人のおはかに行。た時
は、あつくて頭がいなり。たひす。めんはか
あきふうもあひている間に、ミャンマーの
のら犬の写真をとりました。かわいかつたの
す。つぎにびういんに行。て吉岡先生と話
をしました。話はよくわからなひのにおじこ
んたうにほめられました。つぎにホテルに行
きました。おふとんでもさもちよくねました。
三月二十六日(二日目)
ひこうさの、でインレー湖まで行きました。
インレー湖でボートにのりました。おじ
うでゴミひろいをしました。タバコやか
んやあかしのからがたくこんありました。



リねました。
二月二十九(五日目)
つぎの日、日本へ帰りました。大ちゃんて
ババでふろに入りました。さもうぶが、たで
す。朝ごはんにさしめんを食べました。おい
しか、たです。
おわり

尾辻 鷹(おつじよう)4歳

※まだ作文が書けないため、インタビュー形式にして母が代筆しました。
◆ミャンマーで一番楽しかったこと
ぜーんぶたのしかったです
◆ミャンマーでおいしかったもの
ごはんぜんぶ大すきだった、ジュースもぜんぶおいしかった
◆村はどうだった?
たのしかった。ダンスはよくわからなかった。おもちゃであそぶのがたのしかった。
◆ゴミひろいはどうだった?
ゴミがいっぱいあって、びっくりした
◆ミャンマーで大変だったこと
ない!
◆一緒に行った人たちはどうだった?
のんたんがすき♥(※大学生参加者の中牟田さんのことです)
◆ミャンマーできれいだなと思ったものは?
ほうせきとかぜんぶー
◆ミャンマーにまた行きたい?
いきたいー!たのしいから〜♪

尾辻 溪(おつじけい)新3年生

ぼくが、ミャンマーでいちばん楽しかったことは、ボートで水のかいだんのようなところをこえるときに、スピードをあげて、おりるとガタンとなってびっくりしたことです。そして、水のせきどめみたいなのところ、ひっかかってしまいました。どうにかしようとボートのエンジンをかけてうごくかす人がなんとかやりました。でも、とれませんでした。ほかのボートをこいでる人が、いっしょにひきだしてくれて、やっとはずれました。それを見て、ぼくはなかなかんけいがすごくいいと思いました。



ミひろいでゴミをひろったことです。そして子どもだけがさんかして、ぼくは子どものほうが大人より村をきれいにしたいという気持ちがつたわってきたので、子どもは大人よりみんなのことを思っていると思いました。ゴミが、いっぱいあったけど、その中にはぼくにとって、いいものがいっぱいありました。どういうのかというと、コンピューターのいちぶとかしけんかんのガラスビンとかです。ぼくは、こうぶつをひろったり、さがしたりするのが大好きです。なので、ミャンマーでこんどは、山にとまり、山のほうで、ルビーやひすいを見つけたいです。

尾辻 嶺(おつじれい)新6年生

僕が、ミャンマーで楽しかったランキングベスト2を書きます。
ベスト2は、ひまわりの種。まず、ひまわりの種は外側をなめるとしょっぱくておいしいけど、外側は食べられません。中身はハムスターが食べるひまわりの種です。なぜぼくが、ひまわりの種にはまったかというと、村の歓迎パーティーに行ったとき、最

初食べてみました。最初はおいしくないと思ったけれど、食べてみたらとてもおいしかったので、もう今はお店でひまわりの種を買うくらいとても好きになりました。
ベスト1は、インレー湖のボートです。なぜ、インレー湖のボートが好きになったかというと、まずボートで、やさしいお兄さんが、夕日が見える湖の場所まで連れて行ってくれたからです。ミャンマーは日本と違って、夕日がトマトみたいに真っっかでちゃんと大きい夕日が見れるから、インレー湖が気に入りました。インレー湖では、帰りのボードで、せきどめの間にはさまってしまった時に、ボートをこいでる人たちが、いっぱい集まり、話し合い、せき止めでひっかかった原因をさぐり、竹を抜いてみんなで押してくれました。共に助け合うことは本当にえらいと思いました。一番心に残ったことはマインタウン村の子供達とゴミ拾いをしたことです。気づいたことは、ゴミがいっぱいありすぎて、拾うのが大変だったことです。ゴミ処理場でも、ゴミがいっぱい落ちていました。僕は、ミャンマー人と日本人で協力して、もっと仲良くなり、ゴミ拾いの活動をもっと始めるといいと考えました。
ミャンマーの国ではもっとゴミを拾えば、もっと清潔な国になると思います。
ぼくは、ミャンマーが好きになったので、またミャンマーに行き、ミャンマー人の友だちと一緒にゴミ拾いや活動をやりたいです。もっと清潔な国にしたいです。

水谷 旬(みずたにしゅん)新3年生

◆3月25日／タイでまっているじかんでスイカをいっぱいたべました。いっぱいスイカをたべたらたいくつになりました。だからめだまやきとソウセージを2はいたべました。たべたらおなかいっぱいでした。でもひるごはんはぜんぜんたべなかつたです。ものすごいあつさだからぜんぜんたべれませんでした。もうちょっとすずしいところでたべたいです。
◆3月26日／きょうはごみひろいをしました。いっぱいごみをあつめました。ミャンマーはごみがいっぱいです。ごみひろいがおわたたらおてらでごはんをたべました。たべおわたたら町でぼうしをかいました。



◆3月27日／バスでおりがみをしました。いっぱいつくりました。つくったらねました。ちょっとねたらおきてうしろのどこをみにいきました。ケイがおきていたらめっちゃよっていたとおもいます。おりがみをつくるときにちゃんとおつたらきれいにできたからたのしかったです。またしたいです。ついたらほいくえんでした。ほいくえんのぶたいに1かいのりました。さんちようしたけどたのしかったです。かえりのバスもじかんがめちゃくちゃかかりました。ホテルについたらケイとあいとあそびました。おにごっこをしてあそびました。たのしかったです。ぼくはいっかいもおにになりました。そこがたのしかったです。
◆3月28日／シエダゴンダゴタとウィツタカこじいんにいきました。ぼくは日ようびうまれだから日ようびのかみさまをさがしました。そのなかにははだしなのであしがめちゃうちゃいたかつたです。日ようびのかみさまはけっこうたかつたです。水をかけるときはむずかしかつたです。ウィツタカこじいんについてなかにはいったらこどもたちがいっぱいいました。ケイのお母さんがおかねがふくろの中のやつをわたしました。わたしたらこどもたちがしらないうたをうたいました。ぼくとケイとあいとレイがプレゼントをわたしました。
◆3月27日／みんなでかいものにいきました。そこにはあいちにうっていないものがたくさんありました。ばあばがおいしいおかしをかうといっさいしよにそのおかしをいっぴいかごのなかにいれました。おおすぎるから4こにしました。そのおかしをあいちでたべてみたらとてもおいしかったです。3こはともだちのぶんなのでのこしておきました。またかいにいきたいです。ありがとうございました。

岡本 崇志(おかもとたかし)

今回私がこのツアーに参加させて頂いた理由は三つあります。一つ目は海外、さらには発展途上国と呼ばれる国に行きたかったこと。二つ目はNPO法人のスタディーツアーについていくことで、実態を近くで見ることができたと思ったこと。そして、三つ目はこのツアーに参加する方々の話を聞くためです。
ミャンマーの感想としては、私が思っていた以上に活気があり、汚く、せわしないなというのが初めに思った感想です。また、砂埃がひどく、日本を出て花粉から逃れたというのに花粉症の症状は当分治まりま



せんでした。積極的に覚えてたのミャンマー語と拙い英語で直接ミャンマーの人とコミュニケーションをとることで、仏教の教えを基盤とした優しさや豊かさを感じつつも、異なる宗教観からくる疑問というのも同時に感じていました。
このツアーでミャンマーに行くことのメリット…それは、ご飯が毎回めちゃくちゃ美味しいところです。腹も無事壊しましたし、パクチーもたまにあり苦痛でしたが、それを差し引いてもまあ美味しい!体重は増量に次ぐ増量です。宿泊するホテルもいいところです。もちろん、個人では行けないところや、できない経験ができるのが目玉です!支援している村の教育施設の訪問や、培った人脈を使った講演会などはこの豊友会のツアーならではです。教育という自分に身近な観点から見られたので、自分だけの視点で見られたことも多くあったと思います。
最後に、実は隠れたこのツアー最大の魅力を語りたいと思います。それは、参加者の皆様や現地でつながった方々との話です。私は、この旅での最高の収穫なのではないかと思っています。ぶっ飛んだ話から真面目な話まで、それはもう素晴らしいラインナップでした。鳥肌が立ち、自分を揺さぶられるような話をこうも短期間で聞ける経験はそうはないでしょう。皆さんの知識と経験を存分に吸収させていただき、自分の殻を破ります。もちろん、ミャンマーという異国で語ってもらったというのが重要な部分です。いろんな方々とミャンマーで出会えたこと。月並みな表現ですが、この経験は本当に宝物になりました!ありがとうございました。またミャンマーに行きます!